一、箋雄平について

箋雄平の保育事業（その一）

二、箋雄平の保育事業

開設の時期について

わが国で幼児教育機関として草創の時期に開設されたものと
しては、先にあげた京都の幼稚園外に、明治八年十月京都の
幼稲園等の外に、明治八年に東京女子師範学校附属
幼稲園が開設されたといわれる幼稚園や、明治九年に
石川県で開設されたという幼稚園等があり、近年、この
方策の研究がだんだん進み、新しい実施が発揮されつつ
あるということができましょう。ただし、これらの施設
の中にその開設の趣旨が福祉を
主としたものがあったかどうかは明らかにされていないよう
で、幼稚園保育所などという名称からすれば、いわゆる保育所の
講座とも考えられます。しかし、これも明らかでないよう
です。このようなことの先例が存在するつもりはありませんが、
箋雄平翁の碑
明治二十三年説

鶴雄平の託児所設立の時期について従来通説とされてきたのは明治三十三年説の外に、さらに説が加えられ、公の場ではじめてわれたのは昭和五年十月十七日であると説が加えられることで、今では三つ説があるわけである。以下、この三つの説について述べてみたいと思います。

○鶴雄平の託児所設立の時期

鶴雄平の託児所設立の時期に関しては、鶴雄平の託児所設立の時期については、従来、明治三十三年説が主に採用されてきた。しかし、昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、明治三十三年説に対して、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたいと思います。

昭和五年十月十七日においては、鶴雄平の託児所設立の時期については、新たな説が加えられた。以下、この説について述べてみたい思います。
あったことと考えられます。その時の観察家当主は、進平の孫で明治二年九月二十五日生の望櫻治郎氏です。当時、十二歳の当主望櫻治郎氏から託児所開設の時期が明治二十三年と答えたが、推察されることがあります。現在のところそれを裏づける記録や日誌などの資料が全くなく、当時のところそれを裏づける記録や日誌などの資料が全くなく、当時のところそれを裏づける記録や日誌などの資料が全くなく、当時のところそれを裏づける記録や日誌などの資料が全くなく、当時のところそれを裏づける記録や日誌などの資料が全くないからかつ、当時のところそれを裏づける記録や日誌などの資料が全くないからかつ、当時のところそれを裏づける記録や日誌などの資料が全くないからかつ、当時のところそれを裏づける記録や日誌などの資料が全くないからかつ、当時のところそれを裏づける記録や日誌などの資料が全くないからかつ、当時のところそれを裏づける記録や日誌などの資料が全くないからかつ、当時のところそれを裏づける記録や日誌などの資料が全くないからかつ、当時のところそれを裏づける記録や日誌などの資料が全くないからかつ、当時のところそれを裏づける記録や日誌などの資料が全くないからかつ、当時のところそれを裏づける記録や日誌などの資料が全くな

明治四十二年十一月頃観風平から直接託児所の

職を養田に任じたのは、相本良雄の談話があります。この談話

は朝原書に掲載されています。それによると相本は観風平

が云々という箇所があります。この箇所からすれば、託児所が

できた時は、既に下味野では青年団の夜学が行なわれていたわ

解です。つまり、青年団活動の方が早く始まっていったということ

が云々という箇所があります。この箇所からすれば、託児所が

できていたのは、既に下味野では青年団の夜学が行なわれていたわ

解です。つまり、青年団活動の方が早く始まっていったということ

が云々という箇所があります。この箇所からすれば、託児所が

できていたのは、既に下味野では青年団の夜学が行なわれていたわ

解です。つまり、青年団活動の方が早く始まっていったということ

が云々という箇所があります。この箇所からすれば、託児所が

できていたのは、既に下味野では青年団の夜学が行なわれていたわ

解です。つまり、青年団活動の方が早く始まっていったということ

が云々という箇所があります。この箇所からすれば、託児所が

できていたのは、既に下味野では青年団の夜学が行なわれていたわ

解です。つまり、青年団活動の方が早く始まっていったということ

が云々という箇所があります。この箇所からすれば、託児所が

できていたのは、既に下味野では青年団の夜学が行なわれていたわ

解です。つまり、青年団活動の方が早く始まっていったということ

が云々いうでしょう。

次に、注目すべき資料として、鳥取県民倶楽部会員であった

田中次郎氏が昭和二十五年五月十三日に発行した、鳥取県人

農村保育所の考え、の標題を掲げて、「日本農村保育所創設

者は鳥取県高取郡美濃村下味野の観風平氏である。」と主張し、

者の開設時期について「地主にし弘道に帰依厚い観風平氏

は、これこそ子供のため村のため家康のため必要であると認め

て、下味野の遊具を作った上遊び室の工夫をもって来たのが明治二十三年五月

であった。」と述べています。
明治二十年説

明治二十年説といえば、筆者がこのようないたわいうことのできる説です。この説は、昭和三十七年三月十五日発行の著者代表建築家の田中新次郎氏の御教示によるものです。昭和四十二年九月、筑紫野の田中新次郎氏の御教示により、明治二十年説を改めて発表し、その正当性を示すことにしたのです。
だ、この記述の終わりのところで、「蓮花重寿氏・田中次郎氏の御教示による」と書かれているので、この新しい見解が両氏に関係があることは明らかです。次にこの点に関して注目すべき第二のものは「日本の保育十日発行の『日本幼児保育史』第二巻（日本保育学会著）」で公表された資料です。それによると、同氏は「明治二十三年に私があの『日本保育史』の羅敷に私があの『日本保育史』を書いた」と述べています。これは昭和十年頃の経過で、田中次郎氏や奥戸氏の間での出来事です。このように、蓮花重寿氏は、先の二十年説をどこから出たかというと、もう一人の蓮花重寿氏から出たものなので、これも奥戸氏が田中次郎氏の通仏表の説をもとにしたもので、昭和十三年頃の出来事は別に考えるべきです。
児所のこともおそらく道治氏から見たことは間違いないと思うが、それが先の論点になるのです。

以上、明治二十年説とその成立根拠を明らかにするということを試みたが、それを確定するほどの資料はえられないので、この明治二十年説に問題があるといわなければならない。

明治十五年説

さて、筆者は、以上に掲げた諸資料を調査し検討するとともに、鳥取市下味野の現地調査を試みたので、昭和四十三年四月二十七日、当時、鳥取県地方自治局額田市次長中村貴之氏の斡旋で、下味野の宮本家において明治五年八月九日生まれの宮部喜多子氏、小森安子氏の後裔温子氏および幸平翁の託児所開設以前からの生存者である宮部喜多子氏の四人と中村氏と筆者の六人が、同地で調査を執り行った。この調査にあたっては、宮部喜多子氏の説明を聞き、下味野神社の境内の一隅に、同地の市内の他の隅に庵を構え合わせて予定建の建物があり上は青年部下有託児所があった。

その託児所は広さ八畳あまりの土間で、幼児が十人あまり、多いため十四、五人入る。そこで、小さい子が好きであったからこの分校在学中には休時間にとどまど託児所の幼児が遊ぶのを見えいっている。宫部喜多子氏、明治五年生まれで数え九歳といえば明治十三年に分校に入学した。この分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三年に分校に入学した小森安子氏の考証があげられます。分校在学は三年間で、明治十三日に
これは、昭和四十二年十月十九日、中国四国保育学生研究
会での発表の際、配布されたレジュメです。その中に、
託児所設立当時の様子について、小森清子夫人、
当時十歳である宮部しかさん、その従妹いくさん、
"設立者"の
孫にあたる横出隆氏（周子さん）からお話をきく。
このように、
時代をつなぎの
代々の人々
（現在九十五歳）
その後の変化を
伝える存在
である。よって、
「託児所設立当時」と
も言える。

明治二十年（昭和四十一）
の設立をきっかけに、
地元の学校にとって
新たな役割を果たす
ことになる。そして、
明治二十年（昭和四十一）
設立後、
の役割を果たし続けることになる。

このように、
託児所設立当時から保育を手伝ったと
なお、傍証の意味で、
託児所開設当時から保育を手伝ったと

----